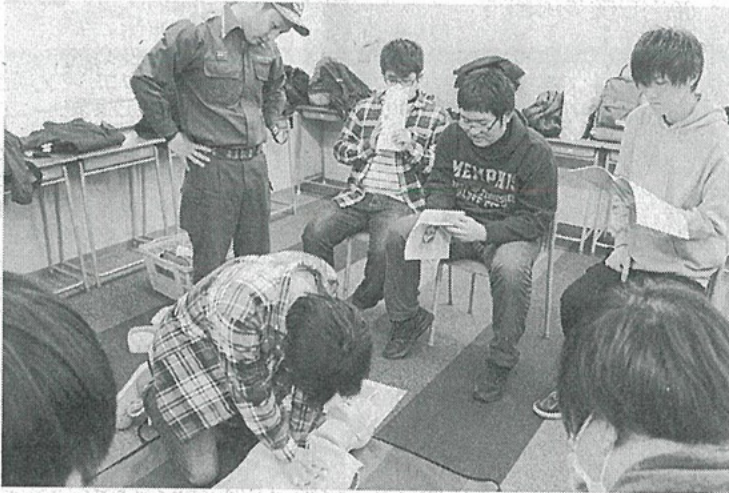


# 救命措置の重要性

## 第一学院高奈良キャンパス

### 心肺蘇生やAEDで講習



懸命に胸骨圧迫をする生徒を見守る大鳥さん（左）と生徒ら。2月26日、奈良市西大寺東町の第一学院高校奈良キャンパス

奈良市西大寺東町の第一学院高校奈良キャンパス（伊東琢磨キャンパス長）は2月26日、

同市南消防署西大寺分署の消防士、大鳥陵介さんら3人を講師に招いて、心肺蘇生の方法やAED（自動体外式除細動器）の使い方

を学ぶ「普通救命講習」を実施、生徒15人が参加した。まず大鳥さんがテキストで救命処置を解説、救急車の現場到着に全国平均で約9分、心停止は約10分で絶望的になるため、その場での処置の重要性を伝えた。

その後、訓練用の人

形を使い胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸、AEDの手順を練習。生徒一人一人が人形に向き合い、真剣なまなざしで指導に耳を傾けていた。AEDでは、使い方以外に、あらかじめ設置場所を確認するなど、普段から救命処置を意識する重要さも学んだ。

3時間の講習の後、生徒らは普通救命講習終了証を受け、「胸骨圧迫が大変。隊員の方々は救命処置を1時間以上する時もあるらしく驚いた」と感想を述べた。大鳥さんは「応急処置の大切さを真剣に学習してくれてうれしい。救急車の台数には限りや、病院が遠い時もある。私たちが到着するまでに何ができるか、市民の方々が適正な判断ができるよう、救命の知識を広めたい」と話した。